

手術制限に関するアンケート調査結果（2020年6月8から14日回答分）

日本麻酔科学会COVID-19 対策特別委員会は2020年6月8-14日に全国の認定病院に対してアンケートを行いました。

質問内容

” 本調査は毎週の日本全国の手術件数と手術室制限状況（COVID-19患者専用部屋やICU化された手術室の数）を調査することにより、麻酔科医・手術室のワークロード現状を調査することにあります。

都道府県名だけの入力ですので、施設の特定がされることはありません。ワークロードの減少、増加を把握することで、COVID-19による手術施行への影響や回復程度を類推することが可能になります。

さらには、麻酔科医の配置などに対する要望にも対応していきたいと思いますので、週に一度の定期的入力をお願いいたします。”

結果

1415の認定病院のうち今回は120施設しか回答がありませんでした。

施設合計の手術室数は971室、そのうち10室(1.0%)がCOVID-19専用の手術室として準備されていました。。今回は何らかの理由で制限されている手術室数が31室で全体の3.2%でした。これらの数字は大きな変化はありませんでした。全体として調査期間に7442件の手術が行われ、この数字は昨年度の平均週手術件数と比較すると80.6%で前々回の76.1%から少し改善傾向でした。

理由はわかりませんが、この週における登録数は明らかに減っており、入力疲れが危惧されました。まだ手術件数は回復には至っておらず、回復傾向が確定するまでは調査を継続できればと考えています。皆様のご協力を宜しくお願いいたします。

本アンケートは全例調査ではありませんので、回答された施設の現状であり、必ずしも現状の全てを表しているものではありません。日本麻酔科学会COVID-19対策特別委員会は本調査を毎週継続して行い、報告していきます。